

生涯教育研修会報告書

学発番号 第11-023号

日時：平成23年7月22日（金）19:00～20:30

場所：京都保健衛生専門学校 実習室

主題：グラム染色標本の作製と観察

講師：足立 睦宏、古川 弘、高橋 裕治 先生

講師所属：株式会社 日本医学臨床検査研究所、（株）いかがく

報告者：岡村 恵美

所属：京都桂病院

分類：20点

全体参加人数：34人

京臨技のみ所属会員参加人数：

以下、講演内容など

グラム染色は微生物検査の基本であり、感染症の診断・治療に有益な情報を得ることができる。近年、微生物検査は外部委託しているが、グラム染色だけは院内で実施したいという施設が増えており、微生物検査に不慣れな技師がグラム染色標本の観察を行う機会も増えつつある。今回の実技講習会はこういった微生物検査未経験者や初心者を対象として、グラム染色手順や観察方法についての講義、固定済み標本を用いた実技講習（フェイバーG法）、グラム染色標本の観察といった内容で構成された。京都府ではハッカー変法を採用している施設は減少し、フェイバーG法やバーミー法が広く使用されるようになってきている。

グラム染色は迅速性に優れ、染色性と形態により菌種の推定が可能な場合がある。また、出現細胞により炎症や検体汚染の推定、貪食像観察により起炎菌の推定が可能な場合がある。一方、菌量が少ないと検出困難、難染性の菌種がある（レジオネラ・抗酸菌・カンピロバクターなど）、菌種の推定には熟練を要する、染色手技により成績がばらつきやすいなどの注意点もある。起炎菌を疑う所見として、無菌材料（血液・胸水・腹水・髄液・関節液など）からの菌検出、非遠心尿で 10^5 CFU/ml以上の菌検出、単一菌種が優位に認められる、炎症細胞が多数出現し貪食像を認めるなどがあげられるが、患者背景や臨床情報も考慮して判断する必要がある。

（報告者 岡村恵美）